



# 明日に向かって

## 喜びも楽しみも分けあって支え合い、共に生きる社会の実現に向けて

総務政策子供委員会、花田委員長、菊池副委員長、工藤委員、吉俣委員、小笠原委員は7月25日、内閣府一自見はなこ大臣に、津島代議士ご同行のもと要望書を手度しました。



### 要 望 書

(内閣府特命担当大臣への内容)

#### 地方創生、人口減少対策に向けた支援について 少子化対策、子育て支援の充実について



年長委員として私からも青森県の実情を話し  
お願いします、の握手を交わしました。

青森県の最大の課題、それは人口減少対策であります。悲しいかな我が県は、全国の中でも速いスピードで人口減少や少子化、高齢化が進んでいます。私達は将来の予測が困難な時代にあっても、人口減少に伴う様々な課題を乗り越え、持続可能な社会をつくり、青森新時代を築いていく為、「青森県基本計画「青森新時代」への架け橋」を旗印に頑張っている所です。そのような事から、令和7年度の国の予算編成及び施策立案に当たって、ご検討いただき、特段のお力添えを賜われますよう、よろしくお願い申し上げます。

青森県議会議員

# 工藤 兼光

皆様のご意見、ご要望をお寄せください。

〒038-2712 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字長平町字甲音羽山59-2  
TEL 0173-72-1224・FAX 0173-72-1233

討 議 資 料



## 令和6年度 北海道・東北6県議会議員研究交流大会 開催



佐藤裕之氏の基調講演では「風力発電を地場産業に」をモットウに風力発電会社「ウエンテイ・ジャパン」を設立、日本海沿岸地域の優れた風資源を活用し風力発電事業や、発電施設の開発や運営、保守、管理等の関連付随事業など、風車製造への挑戦、地域経済活性化を目指している自信あふれる講演でした。

令和6年度、北海道、東北6県議会議員研究交流大会が秋田で開催されました。この他に全国都道府県議会研究交流大会もあり1年にそれぞれ1度開かれます。私は今年、秋田県に参加致しました。趣旨は各道県議会議員の交流を図ることにより、北海道、6県議会議員が一層連携を深め、地域に共通する政策課題等の情報及び、意見の交換を通じて議員の研鑽を図り、もって各議会の活性化と活力に満ちた地域づくりに寄与することを目的とするものであります。



基調講演の後は各分科会、第1分科会は「再生可能エネルギーの利活用について」、第2分科会は「防災力の向上について」、第3分科会は「教育施策について」の3分科会に分かれて意見交換会を行いました。私は、「防災力の向上について」の第2分科会に参加しました。地震災害への対応、大雨治水対策、住民の防災意識向上は、北海道、各県とも同一認識改めて、防災、減災、国土強靱化、の取り組みは一層必要である事を確認いたしました。



## 「鳥獣被害対策について意見交換」



最近ではクマの農産物被害に加えて人的被害も又深刻、以前からサルの被害はもちろん、イノシシ被害も深刻、そのような事から、農林水産部、成田澄入部長、農産園芸課、中村雄二課長と、田中順造議員のご同行を頂き意見交換をしました。

「農林水産部長室に於て」

あれは6月議会が終わり深浦町広戸地区の情報収集に歩いていた時の事、ジャガイモの収穫を終えた後の頃のような様子でした。畑の入り口、木陰にりんご箱の様なものに腰掛けて休んでいる男性に声をかけました。お仕事ご苦労さん、そしてジャガイモの収穫終えたんですね、とすると男性の方は言いました。イノシシに全部やられてこの始末と肩を落としていました。

私は以前からイノシシとは関東地方の山林に住む動物だとばかり思っていました。

しかし鱈ヶ沢町でもイノシシを見かけたとの話を聞いたのはまだ年月は浅いと思っていたがこんなにも成熟した個体がこれほどだとは想像もつかない、猿、クマ、イノシシ、また鳥インフルエンザ等青森県の農産物は危機感を持って取り組んで行かなければなりません。成田部長からも、近年はクマ、イノシシなどによる農作物被害が増えており、中でもイノシシは水稲や野菜類の食害に加えて、豚熱を媒介するなど、本県畜産業の大きな脅威となっていることから、市町村と協力しながら積極的に捕獲を行い被害軽減に取り組んでいきます。とコメントを頂きました。



夜行性、集団活動するイノシシ



実りの秋、水田にイノシシの親子

写真農林水産部 提供



## 地域振興「津軽港」の期待は大きい

昭和58年津軽地域総合開発の拠点として建設が始まり環日本海時代に向けた物流港湾として期待されたが一時は利用低速とも思われた。しかし現在、風力発電、陸や洋上風力発電が脚光浴びている。その為の利用が増えてきている。またO&M港の建設も始まる。



この他に、北の守り海上保安庁の船舶が定期的停泊し、クルーズ船の寄港、降り立ったお客さんはバスやタクシーで、思い思いの観光地に向かう、そういう農林水産を融合する食の観光で地域振興を図りたい、そんな津軽港を目指して頑張っています。

## 「保守・管理拠点港」建設 (O&M)港

日本海に押し寄せる荒波と一緒に運ばれ堆積された砂、「しゅんせつ」される費用は毎年4千万から5千万かかるという、積み上げた膨大な砂の山、この砂を撤去してここに、O&M港、つまりは、オペレーション、アンド、メンテナンス港を建設しようというのです。9月議会の補正に、設計等に要する経費82,423,000円が計上され成立致しました。洋上風力発電の運転及び保守に関するサポートを提供する港で、保守スタッフを洋上風力発電設備まで輸送するCTV船が係留できる岸壁や事務所、倉庫を建設する為の用地が必要です。洋上風力発電所から比較的短い距離に位置することが求められるため津軽港は洋上風力発電の風車に近いため絶好の立地だと言うのです。



積み上げたこの砂を撤去する



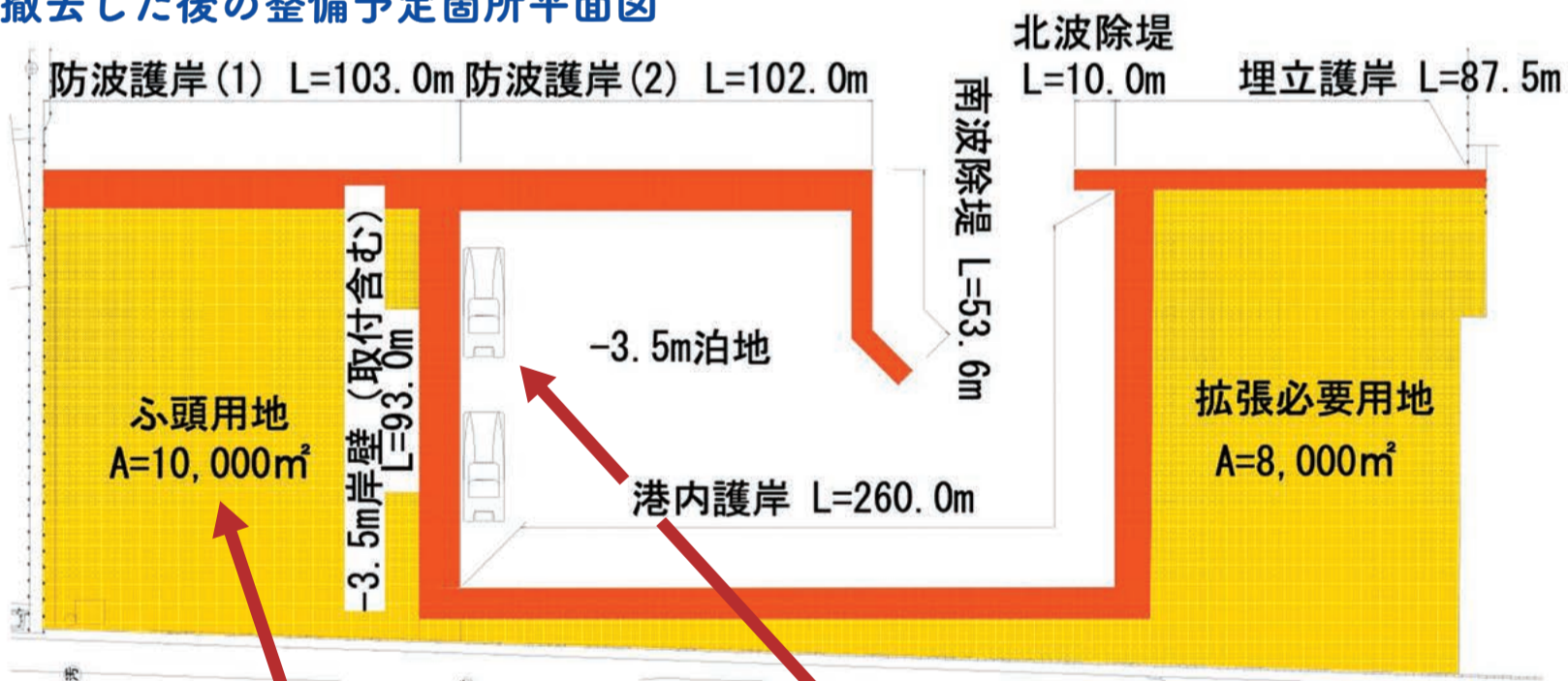
# 「津軽港全景」

津軽港が洋上風力発電のO&M港として生まれ変わります。  
 津軽港は冬期の風浪が厳しいため掘り込みを行い整備することが必要。  
 O&M港整備により保守点検作業員の地元雇用や簡易な部材修繕、あるいは  
 保守の一部を地元企業が受注する事による経済効果が生まれます。



砂を撤去し掘り込みを行ったO&M港の予想図

## 砂を撤去した後の整備予定箇所平面図



事務所・倉庫の建設例



CTV (Crew Transfer Vessel・・・作業員輸送船)



## 中村川「かさあげ」工事始まる

この箇所は一昨年八月九日の大雨により上流から雑木が流れだし五能線の下部工に引っかかり、水の流れが引き留められ、みるみるダム化し、いっきに流れ出したところでもあります。

中村川は今、河川改修や復興工事が進んでいますが、地域住民の多くの人々はこの場所は「かさあげ」しなければ、と言っているところです。

施工延長は500メートル盛土により50センチ高く、幅は3メートル50センチとし  
尚 堤防は舗装仕上げとしていますが、その施工は来年度を予定しているとの事です。

鱒ヶ沢町大字舞戸町字浜毛付近  
(路面が非常に悪い)



地域住民からは沢山の声を届けて頂き有難うございます。しかしながら、理事者側からは順番や、優先順位もあり、又専門職などの人手不足などのお話もあります。

したがって、すぐにご期待に沿う事が出来ない場合がありますが、頑張っていますので引き続き貴重な声を届けて下さい。

鱒ヶ沢町大字米町付近  
(急斜面雑木林が危険)





## 「国道101号安全走行の為に」

深浦町地域住民から「追い越し禁止区域のオレンジ色の車線が消えている」との声が届きました。早速現地を調査し、鯉ヶ沢町警察署にその声を届けました。警察署からの回答は

- ① 広戸駅付近から新広戸橋先の約700メートルの区間にあたる  
深浦町大字広戸字小広戸2-5付近から  
深浦町大字広戸字母沢家岸18-1付近までについては、  
令和7年度に塗り直しいたします。
- ② 追良瀬橋の前後約2,000メートルの区間にあたる  
深浦町大字追良瀬字塩見崎60-3付近から  
深浦町大字追良瀬字相野山番外地付近まで  
については、現在の『追い越しのための右側部分はみ出し通行禁止』の交通規制を、令和7年度中に解除する  
方向で検討していますので、規制解除と同時に白色点線の  
中央線に塗り直しいたします。  
との回答を頂きました。この他にも気がついたところがあれば順次声を届けてまいります。

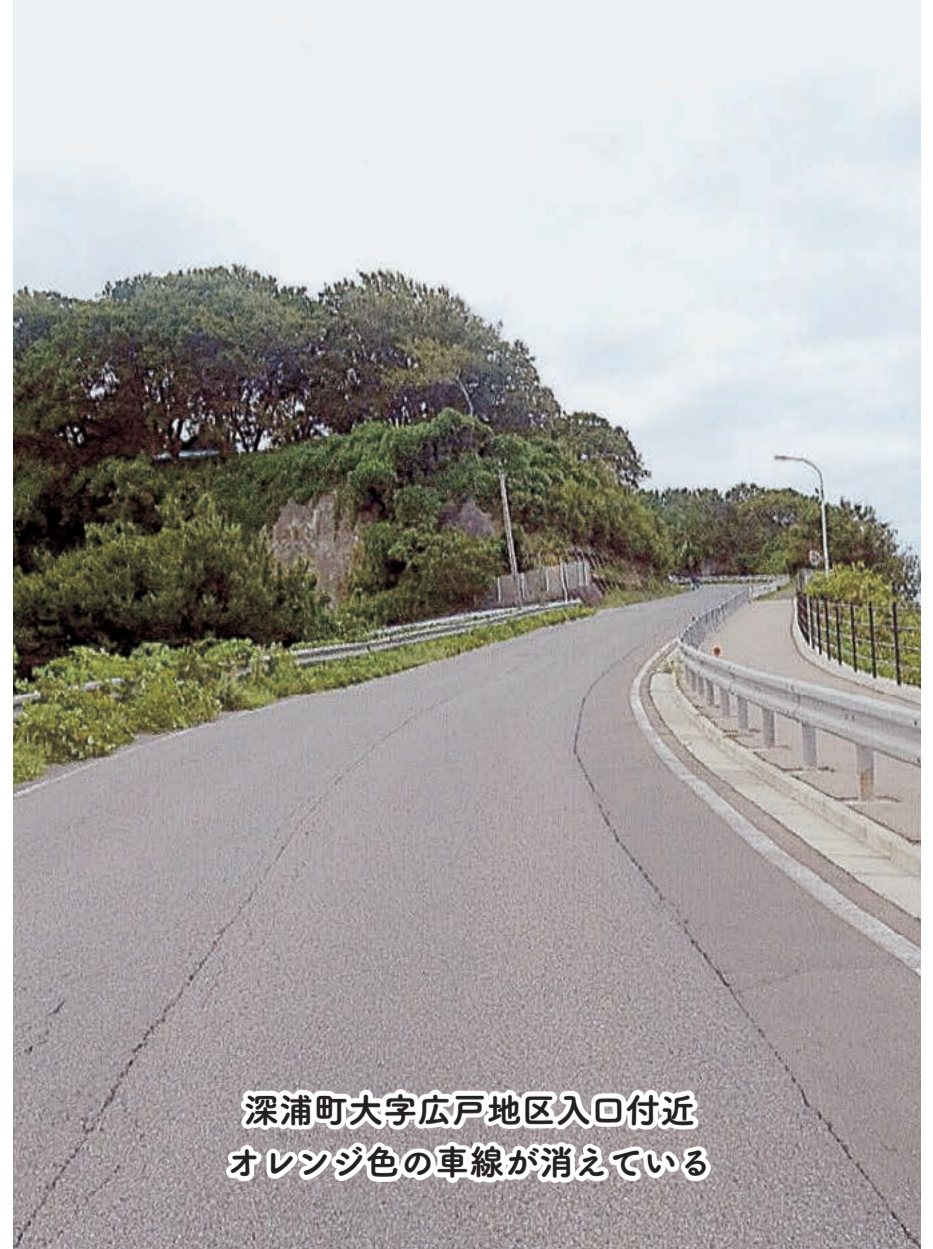


深浦町追良瀬橋を前後しての区間



深浦町大字追良瀬橋付近  
オレンジ色の車線が消えている

広戸駅から深浦町方面



深浦町大字広戸地区入口付近  
オレンジ色の車線が消えている



## 黒崎海岸「海ゴミと、海砂堆積」についての要望がありました

農林水産部水利防災課からの回答は、黒崎海岸におけるゴミの有無等を現地調査したところ、農村整備担当部署が所管する農地海岸区域内で、ゴミが点在していることを確認しました。これらは、海岸漂着物等と思われることから、当該漂着物等の回収、処理に当たっては、環境省の補助事業である「海洋漂着物等地域対策推進事業」の活用も可能と考えられることから、県から深浦町へ情報提供します。

次に砂の堆積について、黒崎海岸では海岸背後の農地を防護するために離岸堤や護岸等を設置しており、特に離岸堤は海岸浸食を防止するだけでなく、離岸堤背後に三角上の砂浜を形成させ、積極的に砂浜を回復させる目的もあります。このため砂の堆積は海岸保全施設の効果発現によるものです。との回答がありました。



## 「押し寄せる海砂で果てしない砂浜が続く黒崎地区海岸線」



砂の堆積は海岸保全施設の効果や、海岸背後の農地を防護するための、役割を果たしていると言うのです。この他に、鳥取砂丘を思わせるこの黒崎海岸を、観光資源として活かじきれないか、など考えさせられる所です。